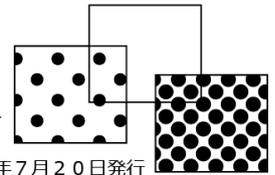


人権だより

令和4年度 1学期号

令和4年7月20日発行



【 砥部分校 人権だよりについて 】

令和4年度、初めての「人権だより」を発行しました。

これは、砥部分校、人権委員会による活動です。

各クラスから選出された2名の委員が、各学期に一度発行します。今学期は3年生人権委員が担当です。今回のトピックは以下の通りです。ぜひ読んでください。

- 私たちがおすすめする「ことば一詩一」
- 人権・同和教育ホームルーム活動（裏面）

《二度とない人生だから》 坂村 真民

二度とない人生だから
一輪の花にも
無限の愛をそそいでゆこう
一羽の鳥の声にも
無心の耳をかたむけてゆこう

二度とない人生だから
一匹のおおろぎでも
ふみころさないようこ
こころしてゆこう
どんなにかよろこぶことだろう

二度とない人生だから
一ぺんでも多く便りをしよう
返事は必ず書くことにしよう

二度とない人生だから
まず一番身近な者たちに
できるだけのことをしよう
貧しいけれど
こころ豊かに接してゆこう

二度とない人生だから
つゆくさのつゆにも
めぐりあいのふしぎを思い
足をとどめてみつめてゆこう

二度とない人生だから
のぼる日 しずむ日
まるい月 かけてゆく月
四季それぞれの星星の光にふれて
わがこころをあらいきよめてゆこう

二度とない人生だから
戦争のない世の実現に努力し
そういう詩を一篇でも多く作ってゆこう
わたしが死んだら
あとをついでくれる若い人たちのために
この大願を書きつづけてゆこう

1年 【よりよい人間関係をつくろう】

1年生は、事前にクラス全員から11R人権キャラクターを募集したり、人権委員が詩の朗読をしたりしてその日の前から活動をはじめました。自分の短所だと思っているところを、前向きワードに変えることを「リフレーミング」といいます。短所だと思っていることでも、言い換えれば前向きワードに置き換わり、その視点で自分と向き合い行動すれば短所も長所になると感じました。また、人権キャラクターを使った場面設定で、相手も自分もストレスなく、傷つけない言葉がけを考える「アサーショントレーニング」も行いました。この活動では、前提として、自他ともにお互いを尊重しあう関係作りが大切だと学びました。今回の学びを意識して身に着け、それが自然にできるようにしていこうと思います。

11R 人権委員

1年生の様子



← 2年生の様子

2年 【部落差別の起こりを学ぼう】

中世の頃に、特定の職業技能を持つ人たちに対して「畏敬や畏怖」を感じていた一方で、「自分たちとは違う存在」と見なし排除するようになったと考えられています。

私たちは中世に描かれた「春日権現験記絵」を班に分かれて鑑賞することで当時の様子を学びました。そこには疫病にかかった人を野ざらしにしている様子も描かれていました。それは当時疫病に対する知識がなかったことが窺えるものでした。これは現在のコロナウイルスにも通じるところがあります。過去の過ちを再度犯さないようにしたいと思いました。そのためには、自分の考えで他社を否定せず、正しい知識を身につけ、適切に対処する必要があると感じました。

21R 人権委員



← 3年生の様子

3年 【だれもが幸せな社会を実現させよう（確かな進路保障のために）】

私たちは、就職時におこる差別について想定学びました。例えば、就職面接で人権問題に係る不適切な質問をされた時に、どう対応すればよいか考えてみました。クラスの中でも、実際にその立場に立った時に、ちゃんとした意見を返せると言う人と、発言できる自信がないと言う人がいました。確かに、いざとなると面接官の前で自分の思ったことを口にするのはかなり勇気のいる行動だと思います。でも、そんな状況でも、怖がらずに一言を発することが、会社にとっても今後のためにもなると思います。これからは、自分たちが学んできた人権尊重の志を強く持って行動したいと思います。

31R 人権委員